

Syllabus Id	syl.-061353
Subject Id	sub-061004620
作成年月日	2006年2月11日
授業科目名	ドイツ語 B(German IB)
担当教員名	大久保清美
対象クラス	電子制御工学科4年生
単位数	1学修単位
必修/選択	必修
開講時期	後期
授業区分	語学
授業形態	演習
実施場所	電子制御工学科棟2FD4HR

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
 近年のヨーロッパ統合の動きに伴い、世界におけるヨーロッパの重要性はますます高まってきている。中でもドイツは、地理的のみならず、政治的・経済的にも欧州連合(EU)の中心である。したがってドイツ語は、ヨーロッパにおいてはコミュニケーション言語としての重要性も高めてきている。しかし、ヨーロッパから遠く離れた日本においては、ドイツ語のコミュニケーション言語としての需要は少ない。したがって、日本におけるドイツ語教育はむしろ、ドイツあるいはヨーロッパの民族・文化・生活様式等に対する理解に重きを置くべきだろう。ドイツ語との出会いは異質な世界との出会いである。学生が授業で出会う異質な世界をよく理解し、異質な世界との取り組みから自分自身の世界をさらによく理解するならば、すなわち学生の経験の地平が広げられるならば、それはまた学生の人格形成に寄与する

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
 ドイツ語 Aの範囲の文法知識・語彙

学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力			

学習・教育目標の達成度検査

- 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
- プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
- 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標
 外国語としてのドイツ語(DaF)教授法分野で上記「授業の概要」で述べたような考えに基づいて1980年代後半から発展してきたのが「異文化間コミュニケーション・アプローチ」(Der interkulturelle Ansatz)である。本授業においても、この教授法が重視する「テーマ・内容」を授業の中心に据え、その各々についてドイツ事情と日本事情とを比較することにより、異文化理解・自文化理解を深め、説明できることを目標とする。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回～6回	Lektion 5: Ein Tag von Michael	・3格と4格の基本的な用法 ・冠詞の3格 ・人称代名詞の格変化 ・前置詞 ・前置詞と定冠詞の融合形 * 名詞と冠詞の格のまとめ ・2格の用法	
第7回	後期中間試験		×
第8回	クリスマス	「きよしこの夜」・「喜びの歌」を歌う	
第9回～14回	Lektion 6: Im Olympiapark	・話法の助動詞 * 未来・推量の助動詞werden ・ビールコースター	
第15回	後期期末試験		×

課題
 成績不振者に対し、ドイツ文化の特定のテーマに関し「特別課題レポート」を課することがある。
 オフィスアワー: 月曜日15:00～16:30

評価方法と基準
 評価方法:
 原則として2回の試験の合計で評価するが、成績不振者については、受講態度(ノート検査等)及び特別課題レポートを加味して評価する。

評価基準:

後期中間試験50%、後期期末試験50%、(特別課題レポート:最大10%、受講態度(ノート検査等):最大10%)

教科書等	ハロー・ミュンヘン、関口一郎、白水社、2100円
先修科目	ドイツ語 A
関連サイトのURL	東京ドイツ文化センター http://www.goethe.de/tokyo
授業アンケートへの対応	コミュニケーション能力養成のためにペア練習は多用しているが、時には机の配置を変えるなどして、グループ学習の時間をもう少し増やしたい。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ

I